

厚生労働省からの医療機能の再編統合検討要請に対する対応について  
みよし市民病院

1 当院の置かれている西三河北部医療圏の地域医療の現状

(1) 西三河北部構想区域の人口見通し

総人口は、2025年には微増し、2040年には微減します。65歳以上人口は、県全体の増加率を大きく上回って増加し、増加率は県内の2次医療圏で最も高くなっています。特に75歳以上人口は、2040年には2013年の2倍になると見込まれています。

(2) 西三河北部構想区域の医療資源等の状況

- ・人口10万対の病院の病床数、医師数とも県平均を下回っています。
- ・入院患者さんの自域依存率が高く流入、流出の少ない地域です。

(3) 西三河北部医療圏 地域医療構想

西三河北部医療圏の地域医療構想では、高度急性期病床は2015年度437に対し2025年必要数368(73過剰)、急性期病床は同1355に対し1128(240過剰)、回復期病床は同261に対し990(726不足)、慢性期病床は同586に対し578(14過剰)となっています。従って全病床数としては2025年必要病床数よりまだ399床不足している地域です。新設の若竹病院、豊田東リハビリテーション病院を合わせても、まだ病床数の足りない地域です。

2 西三河北部構想区域においてみよし市民病院の担うべき役割

当医療圏は、地域医療構想が活発に議論される以前から豊田加茂医師会と5病院(豊田厚生病院、トヨタ記念病院、豊田地域医療センター、足助病院、みよし市民病院)で共同開催する豊田加茂地域医療連携交流会を毎年行い、すでに医療機能分化と医療圏内の地域分担が上手く機能している地域です。

当院は2019年10月現在、急性期病床(54床)、回復期病床(14床)と慢性期病床(54床)からなるケアミックス型の病院です。訪問看護ステーションや地域包括支援センターを併設し、入院から在宅まで切れ目のない医療を提供できることが強みであり、地域からもこの機能を発揮することを期待されています。従って、今後、当院の果たすべき役割は、(1)高度急性期病院及び地域診療所との連携強化、(2)postacute subacute患者に対応する回復期機能の強化、(3)在宅医療の強化及び在宅医療後方支援病院としての役割、であると考えます。

3 みよし市としてみよし市民病院の担うべき役割

みよし市内にある唯一急性期対応ができる病院として今後も急性期対応を続けることが市民病院として求められています。限られた病院規模の中で現在2次救急に対応できている消化器内科、循環器内科、整形外科領域を中心とした急性期入院医療には今後

も対応しつつ、高度医療の必要な患者さんの拾い上げの場として専門外来や健診機能を維持し、高度急性期病院との連携を強化することで必要な医療をスムーズに提供できる体制を形成していきます。

#### 4 分析の対象とした領域ごとの医療機能の方向性

##### (1) がんについて

外科的治療には対応しませんが、がん連携パスには積極的に参加し、標準化学療法などには対応していきます。

##### (2) 心筋梗塞等の心血管疾患、脳卒中について

市内には専門医療機関が無い場合、できる限り対応できるよう努め、重篤度、時間帯に応じた役割分担を高次機能病院にお願いしていきます。

##### (3) 救急医療

市民の生命と健康維持に資するため、また基幹病院の負担軽減のため、地域で必要とされている限り、引き続き二次救急医療機関としての機能を維持します。

##### (4) 小児医療

夜間、救急には対応できませんが、市民の強い要望もあり、外来診療は継続します。

##### (5) 災害医療

みよし市医療救護計画において、災害時における後方医療機関に規定されているため、引き続き市内の災害医療拠点機能を維持します。

##### (6) 研修・派遣機能

現在、愛知医科大学、藤田医科大学から地域医療実習生を受け入れています。

また、豊田厚生病院の臨床研修協力病院として地域医療研修を受け入れており、今後も引き続き行っていく予定です。

##### (7) 周産期医療、へき地医療

対象外

#### 5 2025年に持つべき医療機能別病床数

今後、当医療圏の人口推計では2040年まで高齢者は増加し、医療需要は増大し続けるため病床数は減らしません。地域内の機能分化を明確にするため2025年までに急性期病床20床を回復期病床に転換させ、急性期病床(34床)、回復期病床(34床)、慢性期病床(54床)に病床機能再編を行うことで、当院に求められる地域医療の役割に貢献していきたいと考えます。外来体制や救急対応は現状を維持し可能な限り対応していきます。